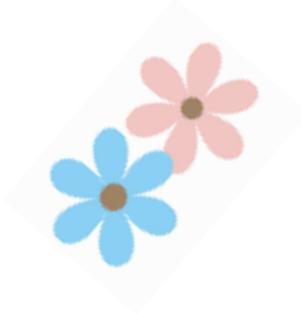


平成21年度東北地区大学図書館協議会合同研修会
「学習支援の場としての大学図書館の役割」



ラーニングコモンズと図書館戦略

～新しいことを楽しむコツ～



2010年7月16日

東京大学教養学部等図書館課長

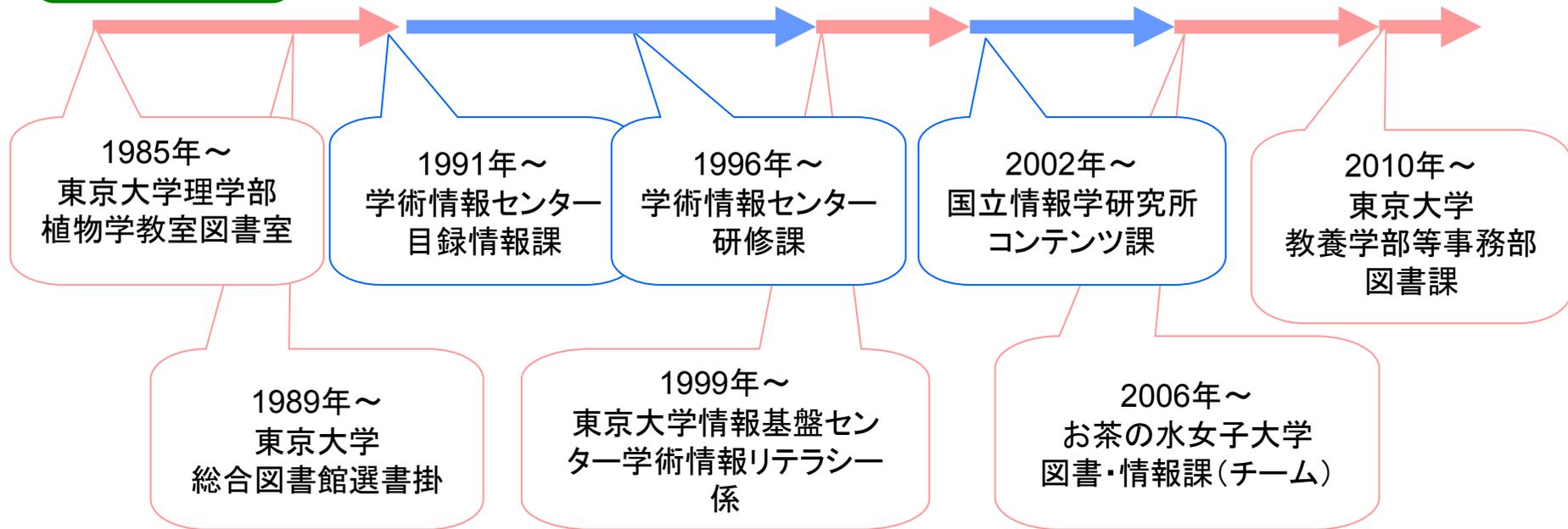
茂出木 理子

modeki@lib.c.u-tokyo.ac.jp



自己紹介を兼ねて

略歴



私のモットー(お仕事版)
『一人でしない、一人にしない』

意識したのは「イノベーション」

イノベーションとは、

「生活者が潜在的に求めていることを感知し、それを実現できるモノやサービスを提供できるようにすること。

そして、そのことにより人々のライフスタイルや価値観の変化を誘導するもの」

2009年8月18日 日本経済新聞

「経済教室」堀井秀之氏の記事から

- ① 利用者の潜在的ニーズを感知
- ② 実現するためのモノ・サービスの提供
- ③ 利用者の行動、価値観の変化を誘導

図書館が学生のためにできることは何？

自由に使えるICT機器 → ラーニング・コモンズ
自由に企画・実行できる場所 → キャリアカフェ
自発的に活動できるきっかけ → LiSA

イノベーションを産む職場

- ① 明るく、開放的で前向きな雰囲気
- ② 働く個人が自己成長力を実感
- ③ 個々の作業が全体の中で明快に位置付け

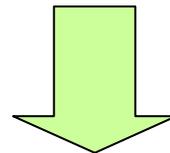
意識するのは「イノベーション」

イノベーションとは、

「**変化を機会として利用するための手段**である。それは体系としてまとめ、学び、実践できるものである。」 P.F. ドラッカー

イノベーションの戦略の一步は、

「**古いもの、死につつあるもの、陳腐化したものを計画的かつ体系的に捨てること**である。イノベーションを行う組織は、昨日を守るために時間と資源を使わない。」 P.F. ドラッカー



イノベーションを産む職場

「整理整頓」が堂々とできる職場

東大

KALS

Komaba Active Learning Studio

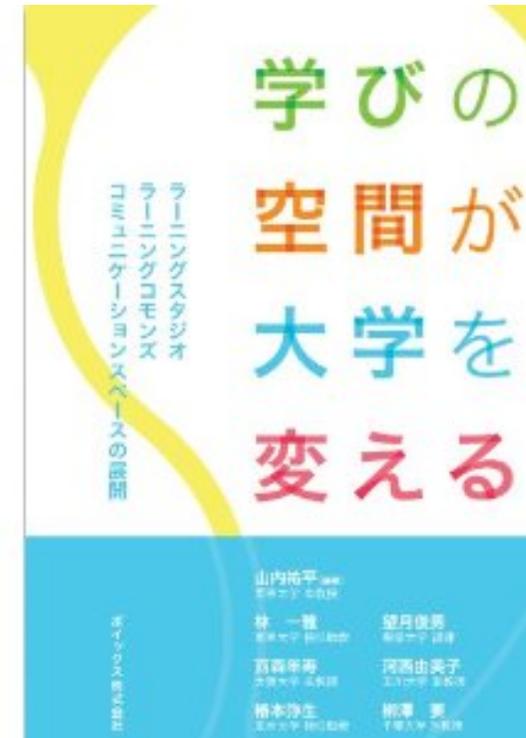
理想の教養教育をめざして

東京大学 駒場キャンパス KALS: Komaba Active Learning Studio



KALSの運用体制

- 部局連携による全学教育プロジェクト
 - 教養学部: 教養教育開発機構
 - 大学総合教育研究センター
 - 大学院情報学環
- 専任スタッフ
 - 空間&機器のコーディネーション
 - メンテナンス
 - TAの指導



山内祐平編著
『学びの空間が大学を変える』
ボイックス 2010.5

ウェイトイング

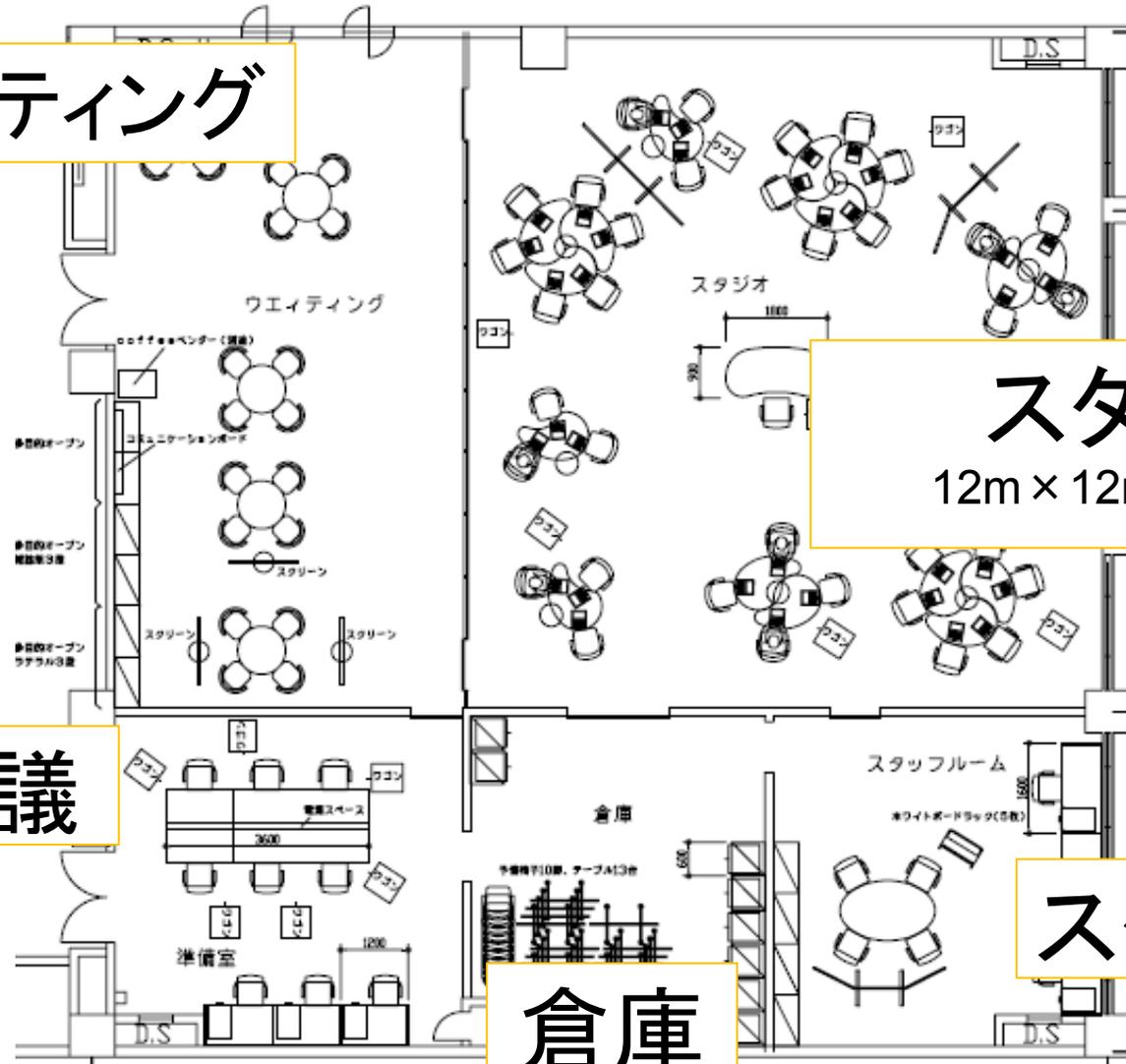
スタジオ

12m × 12m 定員40名

会議

スタッフ

倉庫



フレキシブルな空間構成 授業形態にあわせた学習空間の組立



東大

KALS

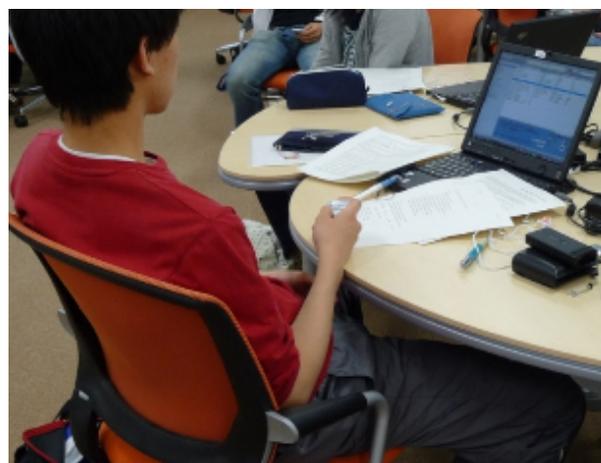
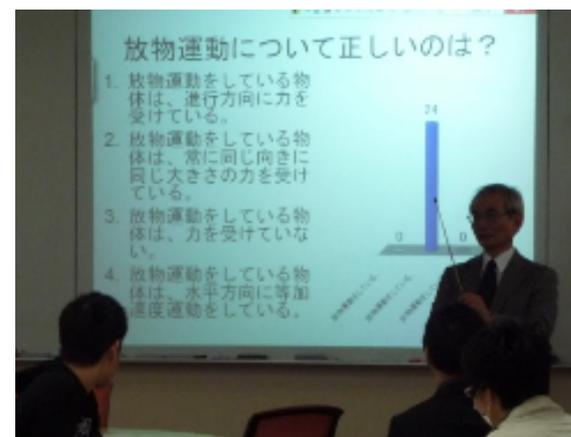
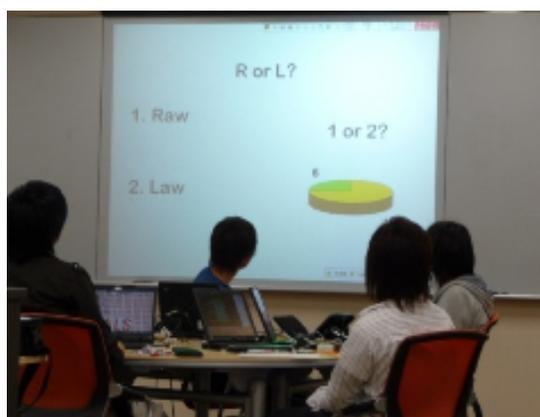
Komaba Active Learning Studio

理想の教養教育をめざして

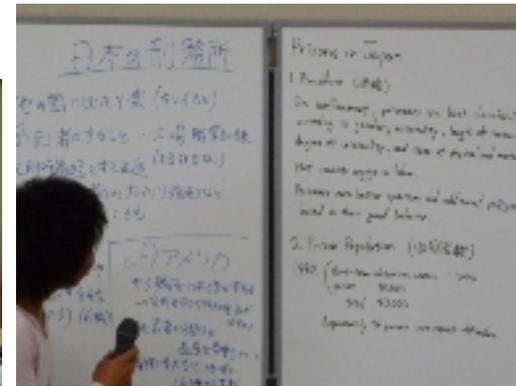
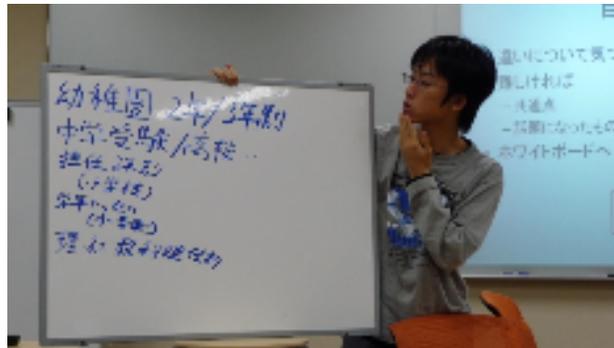


先端的ICTによる学習支援

PRS (Personal Response System)



ホワイトボードも活用



<理想の教養教育の追求>

高度な専門知識と学力を持ちながら、専門に囚われず、広い学問的視野に立って物事を見渡すことのできる人材を育成する。

キーコンセプト： アクティブラーニング

学生自らが、複雑な情報を整理して本質的な課題を見つけ出し、その解決を目指して様々な視点から能動的に課題に取り組む。

アクティブラーニング

伝統的な教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、**学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称**。学習者が能動的に学ぶことによって、後で学んだ情報を思い出しやすい、あるいは異なる文脈でもその情報を使いこなしやすいという理由から用いられる教授法。

発見学習、問題解決学習、経験学習、調査学習などが含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなどを行うことでも取り入れられる。

中央教育審議会大学分科会(2008)

「学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)」p.55

アクティブラーニング

インプット
Input

資料・データ
映像・情報...

トランスフォーム
Transform

比較・分析・批評・評価
判断・問題解決・統合...

アウトプット
Output

発表・レポート
公開...

個別学習と協調学習の連携

Cooperation between Individual
and Collaborative Learning



アクティブラーニングをサポートするスタッフが、
アクティブに仕事できている？

ラーニング・コモンズって結局なに？

~~「情報化に対応した図書館」~~
「学習に役立つ図書館」

「大学図書館が高等教育に
いかに貢献できるか、大学
がいかに図書館を有効活
用できるか、を問う試金石」

「ラーニング・コモンズの設定に当って、その空間に何
があるべきかではなく、その空間で何が起こるべきか
を質問することから始めなければならない」

参考：加藤信哉編訳 『ラーニング・コモンズ基本論文集』 2010.3
(科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書；平成19～21年度・電子情
報環境下において大学の教育研究を革新する大学図書館機能の研究)

ラーニング・コモンズって結局なに？

学習環境の提供（ICT機器、サポート人材、プレゼンツール・・・）

いごちの良い場所の提供（飲食OK、会話OK、素敵な什器・・・）

本学（＝お茶大）にとってラーニング・コモンズは、「21世紀型文理融合リベラル
アーツ教育」を象徴する場であり、学内の各部署が連携して運用すべき協働の
場でもある。

茂出木理子. ラーニング・コモンズの可能性：魅力ある学習空間へのお茶の水女子大学のチャレンジ. 情報の科学と技術. Vol.58, no.7 (2008) <http://hdl.handle.net/10083/31219>



Learning Commons Univ.
Massachusetts Amherst 2007.3 撮影



Mount Holyoke College Library, Information, and
Technology Services部門スタッフ 2007.3 撮影

お茶大

ラーニング・コモンズ、キャリアカフェ



図書館・総合情報処理センター・現代GPコラボレート



CAREER CAFE
2007年12月17日、堂々開店!

お茶大現代GP、始まる。
現代GP
http://ocf.ct.edu.ac.jp/gp/

図書館のデザイン戦略

お茶大図書館は何をしたかったのか？

すべきこと

共感され、
役に立って、
毎日接触してもらえ、
愛される

したいこと

できること

図書館に
変わりたかった

やめたいこと

何を考えて実行していたのか

- スピードが大事
- 美しいものが良い
- 楽しくて思いやりのある職場が良いサービスを生む

etc・・・

図書館に科せられた

つまらない「壁」をとっばらいたい

スピードが大事

- 準備は繊細に、行動は大胆に
- とにかくやる、ダメだったら即やめる

スピードのためにもっとも重要なこと

(リーダーの) 決断が的確でわかりやすい

そのためには

常日頃の情報共有、目標の共有

そうすると

動きやすい、ムダな仕事をしなくてすむ、
ストレスが経る

美しいものが良い



仕事における
美的センス

物事にセンシティブな自分

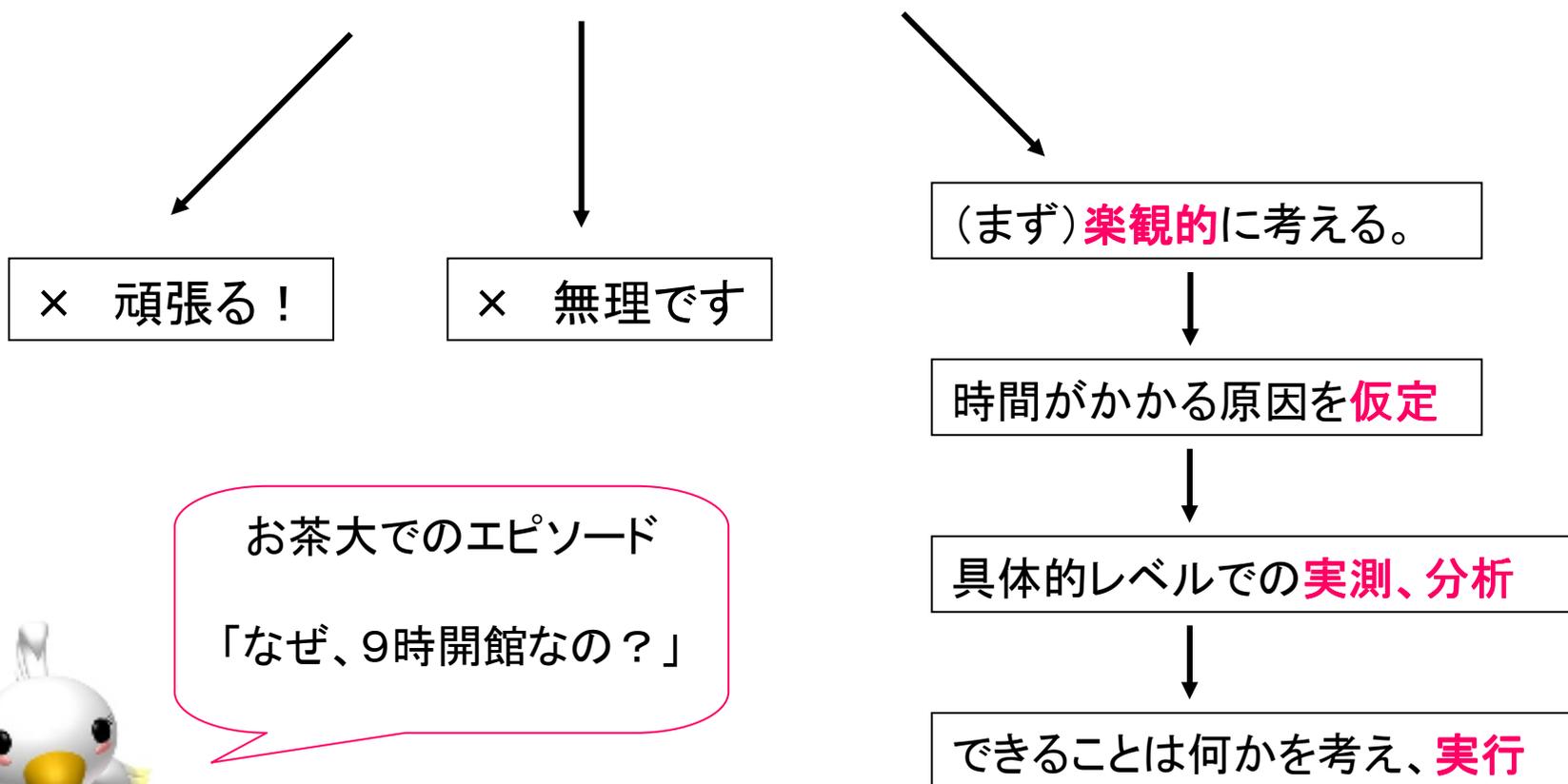
客観視できる自分

ワークスマートな自分

戦略から実施へのプロセス

「なぜだろう？」そしてその次

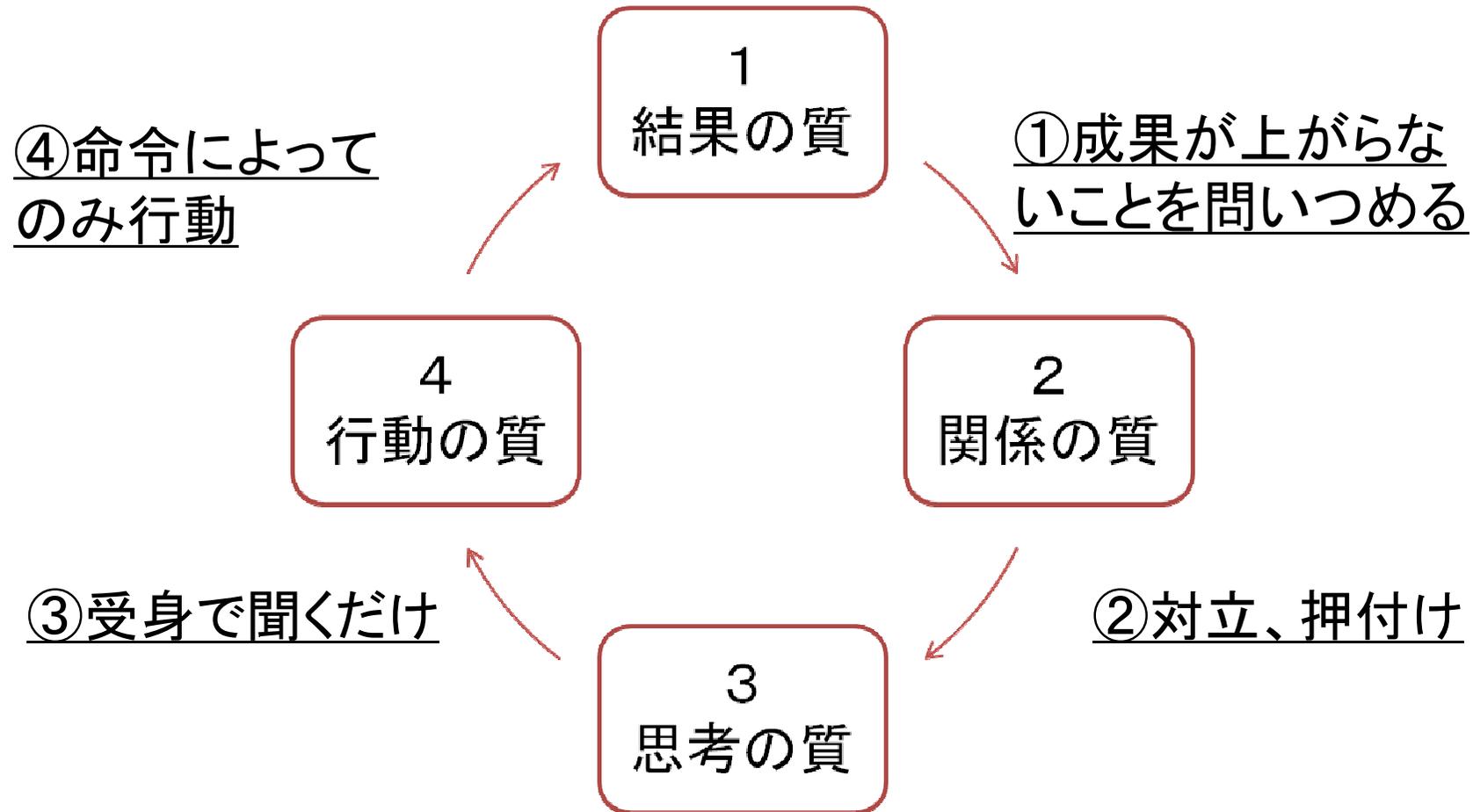
(例) ある定型的な作業に対して、「もう少し早くできない？」と指摘された。



お茶大でのエピソード
「なぜ、9時開館なの？」

戦略から実施へのプロセス 組織の成功循環モデル

Badサイクル



参考

橋場剛著『優れたリーダーに変わる たった1つの行動』（中経出版, 2010年）

戦略から実施へのプロセス

組織の成功循環モデル

Goodサイクル

